医学系研究に関する情報公開および研究協力のお願い

聖隷浜松病院では、当院の臨床研究審査委員会の承認を得て、下記の医学系研究を実施しております。

研究の実施にあたり、対象となる方の既に存在する試料や情報、記録、あるいは、今後の情報、記録などを使用させていただきますが、対象となる方に新たな負担や制限が加わることは一切ありません。

ご自身の試料や情報、記録を研究に使用してほしくない場合や研究に関するお問い合わせなどがある場合は、以下の「問い合わせ窓口」までご連絡下さい。研究への参加を希望されない場合、研究対象から除外させていただきます。研究への参加は自由意思であり、研究に参加されない場合でも、不利益を受けることは一切ありませんのでご安心下さい。

研究課題名	タキサン系抗がん剤誘発性爪障害に対する、薬剤師によるアピアランスケア介入の有用性評価
研究責任者	薬剤部　江間　文香
研究実施体制	当院のみで実施される研究
研究期間	臨床研究審査委員会承認日　2026 年 4 月　～　2026　年　12 月
対象者	婦人科、乳腺科のタキサン系抗がん剤（ドセタキセル、パクリタキセル、アブラキサン）使用レジメンの外来通院女性患者さん
研究の意義・目的	乳癌患者を対象に発現した副作用の苦痛度を調査した先行研究では、外見変化に関する副作用が 約 60%を占めることが報告されています。その中でも、爪障害は脱毛・乳房切除に次ぎ頻度が高く、生活の質（QOL）低下を招きやすく薬学的介入の余地があります。タキサン系抗がん剤は高頻度で爪障害を発症し、また、実際の臨床現場においても以下の問題点が挙げられます。 ①爪症状に対する相談窓口やその利用頻度が不明確 ②多職種が薬剤師にどのような介入をして欲しいかが不明確である。 ③薬剤指導の際、悪心嘔気や好中球減少などの重篤な副作用と比べ、外見変化の説明は優先順位が低く後手になる傾向がある。 これらの現状を踏まえ、本研究ではアピアランスケアの現状を把握し、薬剤師がアピアランスケア介入を行うことの有用性評価、ひいては抗がん剤による爪障害の悩みを抱える患者さんの苦痛度を減らすことを目的とします。
研究の方法	【方法】 2026 年 4 月～2026 年 12 月の期間で婦人科・乳腺科外来にてタキサン系抗がん剤（ドセタキセル、パクリタキセル、アブラキサン）使用レジメンの女性患者様を対照とし以下の方法で介入を実施いたします。 ・初回投与時にパンフレットを用いて化学療法担当者（薬剤師）が、爪障害のリスクやケア方法について説明し、患者様にアンケートを回答していただきます。指導後、薬剤師が電子カルテ上にテンプレート（初回用）を入力します。 ・4 サイクル目投与時にもアンケートを回答していただきます。初回投与時に実施した爪障害のリスク・ケア方法の説明が有用であったかを 10 段階で評価していただきます。また、初回投与時と同様に薬剤師がテンプレート（2 回目以降用）を入力します。 【評価】 回収したアンケートとテンプレートをもとに初回投与時と 4 回目投与時の回答内容を比較しアピアランスケアの現状の把握（爪障害への不安やケアの実践の有無など）と、薬剤師

聖隷浜松病院/臨床研究審査委員会

（研究承認番号：　5297　）　2026 年　10 月　21 日承認

	によるケア方法の説明および介入が有用であったかを評価します。
個人情報の取扱い	本研究で利用する資料や情報、記録からは、直接ご本人を特定できる個人情報は削除した上で、研究成果は学会や雑誌等で発表されます。取り扱う情報は、厳密に管理し、外部に漏洩することはありません。なお、個人情報の利用目的等について詳細をお知りになりたい場合は、「問い合わせ窓口」までご連絡下さい。
個人情報開示に係る手続き	個人情報開示の手続きについては、「問い合わせ窓口」にご相談下さい。
資料の閲覧について	ご要望があれば、開示可能な範囲で、この研究の計画や方法について資料をご覧いただくことができます。ご希望の方は、「問い合わせ窓口」までご連絡下さい。
問い合わせ窓口	聖隷浜松病院　薬剤部　　（氏名）江間 文香 TEL:053-474-2222（代表）　9:00～17:00　平日

聖隷浜松病院/臨床研究審査委員会
（研究承認番号：　5297　）　2026 年　10 月　21 日承認